

7月歴史文化クラブ研修会・報告

唐古・鍵遺跡から纏向遺跡

田代 一行

当日は今年、最高気温の 36 度となり、猛暑の中の研修会お疲れさまでした。

今回の参加者は 28 名。参加予定者全員が定刻の AM9:10 に JR 三輪駅に集合しました。

駅広場で古川代表、中井世話人より「纏向遺跡」、「唐古・鍵遺跡」について研修ポイントの説明があり、田代世話人より見学コースの説明のあと出発しました。

今回は電車等交通の便を考慮して、先に桜井市埋蔵文化センターまで行き、発掘に携わった学芸員のわかり

やすい解説と出土品等を見学。学芸員の熱のこもった解説にたくさんのかたがたが活発に質問して、大変盛り上がり、予定時間を超える状況となりました。

その後、約 30 分で箸墓古墳(大市墓)へ到着。参拝した後、中

井世話人より卑弥呼説を含め、「箸墓古墳と邪馬台国大和説」のテーマで解説がありました。話のあと、周濠から古墳の全形を背景に集合写真を撮り、纏向遺跡へ。途中、勝山古墳、石塚古墳、矢塚古墳



を展望しながら歩き、纏向遺跡宮殿跡地へ 12 時頃に到着。

宮殿跡地で田積世話人より纏向遺跡について説明があり、休憩所へ移動し、昼食。その後、巻向駅 12:30 発の JR で桜井駅まで行き、近鉄に乗り換え、近鉄田原本駅に到着。近鉄田原本駅から炎暑の中、約 25 分歩き、「唐古・鍵考古学ミュージアム」へ到着。

田代世話人より「唐古・鍵遺跡」について簡単な説明のあと、2 班に分かれて



展示場に入り、解説員の説明を聞きながら出土品を見て回りました。ここでも、桜井市埋蔵センターと同様、解説員が、出土品一点一点、丁寧にわかりやすく、解説していただきました。また参加会員のかたがたも熱心に質問を交えながら見学、出土品を通して、弥生時代の暮らしやムラの状況がよく理解できたのではないかと思います。

今回は弥生時代の代表的な「唐古・鍵遺跡」と古墳時代の「纏向遺跡」の両資料館で、解説と出土品を通して「ヤマトのムラ」の起こりから古墳時代移行期の状況を学ぶことができました。

「唐古・鍵遺跡」の終焉と「纏向遺跡」との関係については、纏向遺跡の発掘調査が全体の 8% ほどで、住居跡の遺構もまだ発見されていないため、今後、調査が進むにつれて、明らかになってくるのではと思われます。

なお、当日は暑さのため「唐古・鍵遺跡」の現地見学については、希望者のみとし、「唐古・鍵考古学ミュージアム」にて解散としました。

